

文法識別テスト

百人一首の歌に含まれる文法事項について答えなさい。

名前：_____ 日付：_____年____月____日

問1 「花の色は移りにけりな」の「に」の文法的説明として正しいものを選べ。

問2 「つくばねの峰より落つるみな川恋ぞつもりて淵となりぬる」で係り結びを指摘し、結びの語の活用形を答えよ。

問3 「忍ぶれど色に出でにけり我が恋は」の「けり」の意味は？

問4 「秋の田のかりほの庵の苫をあらみ」の「あらみ」の文法的説明を答えよ。

問5 「住の江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ路人目よくらむ」の「や」と結びの関係を答えよ。

問6 「人知れずこそ思ひそめしか」の「こそ」と結びの語の活用形を答えよ。

問7 「恋すてふわが名はまだき立ちにけり」の「に」は完了か打消か、理由とともに答えよ。

問8 「わが衣手は露にぬれつつ」の「つつ」の意味は？

問9 「ながめせしみに」の「し」の文法的説明を答えよ。

問10 「霧立ちのぼる秋の夕暮」の「のぼる」の活用の種類と活用形を答えよ。

文法識別テスト ― 解答

- 問1 完了の助動詞「ぬ」の連用形
- 問2 「ぞ」...「ぬる」(連体形)
- 問3 詠嘆(～たなあ)
- 問4 形容詞「荒し」の語幹+「み」(～ので、の意の接尾語)
- 問5 「や」...「らむ」(連体形)
- 問6 「こそ」...「しか」(已然形)
- 問7 完了(「立ち」は連用形なので、連用形接続の完了「ぬ」)
- 問8 反復・継続(～し続けて)
- 問9 過去の助動詞「き」の連体形
- 問10 四段活用・連体形